



患者さんに優しいCT(Computed Tomography:コンピュータ断層撮影) 検査提供への取り組み ～被ばく線量・造影剤量の低減～



CT検査は、X線を用いて短時間で広範囲を撮影できる画像診断装置であり、病気の早期発見や経過観察等に有用で幅広く利用されています。しかしながら、放射線被ばくや造影剤による体への影響(造影剤腎症)が懸念されています。

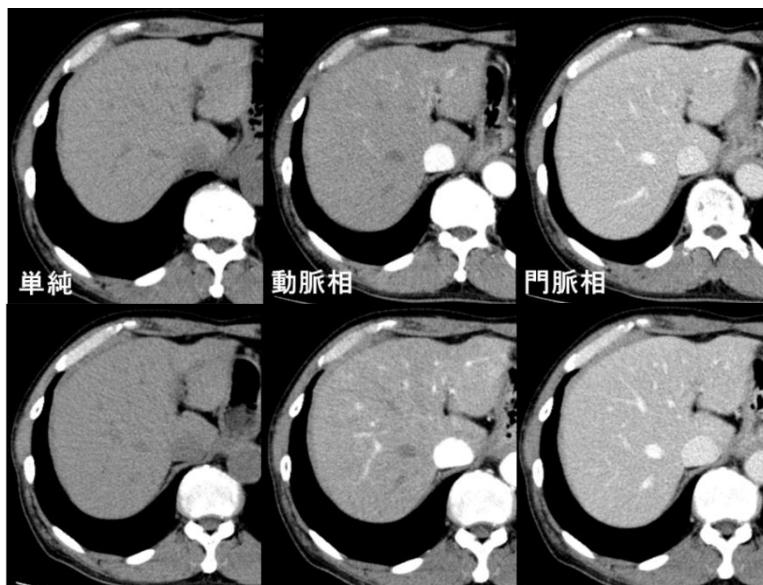
当院ではこの問題への取り組みとして、被ばく線量低減策として、逐次近似応用型再構成法を幅広くCT検査に応用することで画像診断に必要な画質を維持しながら患者さんの被ばく線量を従来と比較して30～40%程度低減した検査を行っています。さらに造影剤腎症対策としては、通常は管電圧120kVpのところを、100kVpと低く設定して撮影を行う低管電圧撮影に取り組んでいます。この低管電圧撮影により、造影剤の主成分であるヨードの造影効果が上昇するため、従来と同等の造影効果を保ちつつ造影剤量の減量が可能となります。当院では、従来と比較し約20%の造影剤量低減を達成しています。

今後も患者さんに安全・安心なCT検査を提供できるよう、中央放射線部スタッフ一同誠心誠意取り組んで参ります。

皆様からの放射線画像検査のご紹介やお問合せをお待ちしております。

(上段にお示する当院の従来撮影法(120kVp)に対して、下段にお示する逐次近似応用型再構成法+低管電圧撮影法(100kVp)は画質を担保しつつ患者さんの被ばく線量を従来比30～40%低減し、さらに約20%の造影剤量低減を達成しています。)

従来撮影法(120kVp)



逐次近似応用型再構成法
+
低管電圧撮影法(100kVp)

中央放射線部 部長 玉田 勉
中央放射線部 技師長 吉田 耕治

・病院からのお願い

【ご紹介いただく際のお願い】

当院に患者様をご紹介いただく際に細胞診や組織診などの病理検体(プレパラート)がございましたら、病理検査所見と一緒にご紹介時にご持参頂くようお願い申し上げます。